

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 652 号	氏名	柳田 頼英
学位審査委員	主査	沖田 実	
	副査	小澤 寛樹	
	副査	東 登志夫	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、歴史的背景や大気汚染の程度が異なる 2 つの公害認定地区在住の認定患者の特徴を比較・検討し、大気汚染が呼吸機能にどのような影響をおよぼすのかを明らかにしたもので、その目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 岡山県倉敷市水島地区と福岡県北九州地区に在住する公害認定患者 623 名（水島地区：489 名、北九州地区：134 名）を対象に、認定疾患、年齢、身体組成ならびに呼吸機能を初回認定時とその 20 年後にあたる最終検診時で比較し、さらに、最近 10 年間の呼吸機能の年間変化量に関する比較を行い、これらの解析を通して 2 地区の特徴を明らかにしている。また、この 2 地区の特徴を環境白書から入手した大気汚染物質の経年的変化から検討を加えており、研究手法としても妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、呼吸機能の年間変化量に関しては 2 地区で違いは認められなかったものの、北九州地区は水島地区と比較して年齢が若く、認定疾患において喘息の割合が高く、呼吸機能も低いことが特徴として示されている。そして、この要因には歴史的な大気汚染の暴露期間や大気汚染物質としての二酸化窒素濃度が関与することも示されており、大気汚染と呼吸機能との関連を検討する上での有用な基礎データが提示されている。</p> <p>以上のように、本論文は大気汚染の生体への影響に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			